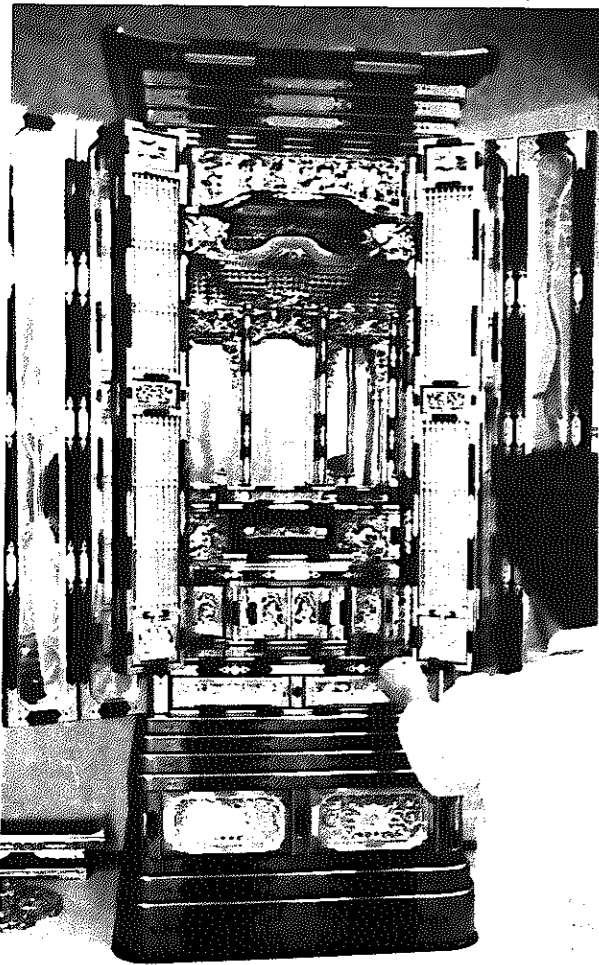




金具師の作業場からは、金具を打つ音が響きわたる。彫刻師同様、一日中この体形で作業が続く

数々の工程を終えた仏壇は、店頭で並べられてお客を待つ



塗り部門では、うるし塗り、金ばく押しを経て組み立てを行う

この指定により白根仏壇は、技術技法を継承する従事者研修や、後継者の育成などの振興事業が長期にわたって行われることとなります。

白根仏壇の歴史は古く、約二百年ほどさかのぼる江戸時代中期にはすでにつくられていたとされています。白根の歴史は水との苦闘史。開拓農民の心の支えは仏教であり、信仰は熱く、仏壇を家宝とし、仏壇を飾れば一人前の百姓でないとされてきました。分家させるときは必ず仏壇をもたせて出す、そんな信仰のなかから白根仏壇は生まれたのでしょうか。

一つの仏壇ができるまでには、本体や宮殿など仏壇の骨格づくりをする木地部門、次に彫刻部門、金具部門を経て、うるし塗り、金ばく押しや組み立てをする塗り部門と、完全な分業制をとっています。



二百年の歴史を受け継ぐ伝統技法 伝統的工芸品に通産大臣指定

新潟・白根仏壇

「白根仏壇は、大変に優れている。特に木地と金具は日本一だ」と、伝統的工芸品を指定する専門委員の千葉大学成田教授が、現地審査で絶賛したという。

白根、新潟、豊栄の三市で組織する越後仏壇



木地部門で仏壇の大部分が形づくられる。この仕事に意欲を燃やす若者の目は輝く



細かい手先の作業の続く彫刻師。指先に全神経を集中させる